

(介護技術・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 92 から問題 94 までについて答えなさい。

〔事 例〕

P市に住むFさん(85歳、男性、要介護1)は、下肢の筋力が低下し歩行に支障があり、室内の家具を使って伝い歩きをしている。調理と掃除の訪問介護サービスを週2回利用している。Fさんは知的障害のある娘(48歳)と二人暮らしであり、娘は日中、作業所に通っている。今回の訪問時にソファで横になって動こうとしないFさんに声をかけたところ「最近、浴室で転んだ」と話した。きれい好きなFさんであったが、髪は汚れひげも伸びていた。Fさんは前回の訪問時と同じシャツを着ており、洗濯かごには娘の衣類が入っていた。また、ソファの下に湿布や鎮痛剤の薬の袋が落ちていた。

問題 92 現時点でのFさんの生活をアセスメントする際に、優先されるものを一つ選びなさい。

- 1 洗濯の状況
- 2 入浴の状況
- 3 転倒の状況
- 4 睡眠の状況
- 5 娘の状況

問題 93 Fさんの状況を把握した訪問介護員の行動として、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 介護支援専門員の訪問を待つように伝えた。
- 2 訪問介護サービスの「調理」を「入浴」に変更した。
- 3 事業所のサービス提供責任者に報告した。
- 4 介護内容の変更をP市役所に依頼した。
- 5 娘に家事を手伝うように指導した。

問題 94 数日後、回復したFさんは「自宅で入浴したい」と伝えてきた。安全に入浴するための助言内容として、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 段差解消には、すのこ等を使用する。
- 2 シャワーチェアを使用する。
- 3 滑らないバスマットを使用する。
- 4 石鹼^{けん}をケースに入れて床に置く。
- 5 浴室と洗面所の温度差を少なくする。

(介護技術・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 95 から問題 97 までについて答えなさい。

〔事例〕

Gさん(95歳、要介護5)は妻(88歳)と二人暮らしで、5年前より寝たきりである。ベッドとエアマットの貸与を受け、日常生活は全介助である。Gさんは意思表示はでき、Gさんと妻の希望で自宅で終末期を過ごし、延命処置はしないという方針である。1週間ほど前から徐々に意識レベルが低下し、主治医からは「いつ亡くなくてもおかしくない状態です」と言われ、訪問介護と訪問看護を毎日受けることとなった。

問題 95 妻は時々、「夫に対して、今の生活で十分なことができているのかしら・・・」と言うことがある。妻に対する訪問介護員のかかわり方として、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 Gさんの清拭^{せいしき}は妻と一緒に行う。
- 2 妻からGさんとの今までの生活について傾聴する。
- 3 妻の悲嘆へのケアはGさんの死後から行う。
- 4 妻の体調不良がないか観察する。
- 5 妻が何でも相談できるような関係を構築する。

問題 96 妻が「呼吸が止まったらどうしようと気になって、昨夜は眠れなかった」と言った。この場面での訪問介護員が行う妻への支援として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 訪問看護師に頼んで今の状況や対応について説明してもらう。
- 2 「後悔しないように、もっと頑張りましょう」と答える。
- 3 「入院してもらってはどうですか」と提案する。
- 4 「そんな心配はないですよ」と答える。
- 5 主治医に睡眠薬を処方してもらうことを提案する。

問題 97 Gさんは、意識レベルが低下してから、やせが目立ち、呼吸数が減り無呼吸も見られるようになってきた。訪問介護員は訪問看護師と連携体制をとっている。この時期の訪問介護員が行う介護として、適切なものを一つ選びなさい。

- 1 肩の皮膚に発赤が見られたので、1時間毎に体の向きを変えた。
- 2 呼吸が下顎呼吸^{かがく}になったが、様子を見た。
- 3 足にむくみが見られたので、踵^{かかと}の下に小さな円座を当てた。
- 4 口唇が乾燥していたため、ガーゼで湿らせた。
- 5 死期が迫っているので、妻にGさんから離れているよう伝えた。

(介護技術・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 98 から問題 100 までについて答えなさい。

〔事例〕

5 年前に介護老人福祉施設に入所した H さん(87 歳、女性)は、入所当初は移動には車いすの介助が必要であった。しかし、現在では車いすを自分で操作して移動し、何かにつかまれば 2～3 歩は歩行可能で、移乗と排泄は自立している。H さんは歌が好きで社交的である。最近視力と下肢の筋力の衰えが目立ち始めた。また、1 か月前には同じ年で仲の良かった友人が亡くなった。H さんは睡眠薬を服用するようになり、今日の明け方、入所後初めて失禁してしまった。H さんは「こんなことになってしまって・・・」と泣きくずれた。

問題 98 泣いている H さんへの共感的な声かけとして、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 「泣くほど大変なことではないですよ」
- 2 「泣きたいほどつらいですね」
- 3 「みんなが頼りにしていますから頑張りましょう」
- 4 「泣かれると私もつらいです」
- 5 「みなさんも同じですよ」

問題 99 H さんの失禁への支援として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 おむつの使用を勧める。
- 2 水分を控えるよう勧める。
- 3 室内にポータブルトイレを置く。
- 4 一人でトイレに行かないよう伝える。
- 5 H さんと一緒に今後の対応を考える。

問題 100 Hさんの生活支援として、適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 散歩に誘う。
- 2 足浴を行う。
- 3 ゆっくり話を聴く。
- 4 好きな歌を楽しむよう勧める。
- 5 行事の司会進行を依頼する。